

*この科目は実務経験のある教員による授業科目です。

科目区分	専門分野 I	科目名	看護学概論		
開講時期	1年次	単位・時間	1単位30時間	講師名	専任講師
学習目標	1. 看護の本質を理解し、総合保険医療体系の中で看護の概念を明確にする 2. 看護の歴史を通して、現在の看護の位置づけ及び諸問題について学ぶ 3. 専門職業人として看護の役割を理解する 4. 広い視野で看護の役割を理解する				
授業の内容と方法	回	授業内容			授業形態
	1	看護学とは 看護学の構成 看護学における技術			講義
	2・3	看護の概念(1) 定義 主要概念(人間 健康 環境 看護)			講義
	4	看護の歴史 ナイチンゲール出現前後の看護 日本における看護の変遷			講義
	5	看護理論(1) 理論とは 歴史と動向 理解と活用			講義
	6・7	看護理論(2) 理論家の考えから学ぶ			グループワーク
	8	看護の機能と役割 看護職者の倫理			講義
	9	看護の提供の仕組み(1) 看護におけるサービス			講義
	10	看護の提供の仕組み(2) 看護管理 医療安全			グループワーク
	11	看護における技術 看護実践能力 看護過程			講義
	12	看護職員と保健医療福祉サービスの理解 看護職員 保健医療チームと看護チーム 看護活動の場			講義
	13	看護と社会(1) 看護制度と看護行政			講義
	14	看護と社会(2) 看護師の職業的地位と専門職業集団 社会の変化とこれからの看護			講義
	15	終講試験			講義
	評価方法	筆記試験 100%			
テキスト	系統看護学講座 基礎看護学 看護学概論(医学書院)				
参考文献	看護覚え書(現代社) 看護の基本となるもの(日本看護協会出版会) ミルトン・メイヤロフ:ケアの本質(ゆみる出版)				
自己学習時間	15時間	事前・事後学習	前回の講義資料を復習する テキストの関連部分を読む 課題が提示された場合は、事前に調べて参加する		

*この科目は実務経験のある教員による授業科目です。

科目区分	専門分野 I	科目名	看護倫理		
開講時期	3 年次	単位・時間	1 単位 1 5 時間	講師名	専任講師
学習目標	1. 看護者としての基本的責任を果たす為、看護者のあり方に対する倫理がわかる 2. 人間尊重の精神に基づき人間としてのあり方、生き方について理解と思索を深め、倫理に基づいた行動が取れる能力を養う				
授業の内容と方法	回	授業内容			授業形態
	1	1. 看護倫理の基礎 1)倫理とは何か 2)専門職の倫理			講義
	2	2. 看護倫理の歴史 1)医学の発達に伴う倫理的問題の出現 2)現代医療における倫理的問題 3)国際及び日本における看護者の倫理綱領の変遷 3. 職業倫理 1)患者の持つ権利と看護者の責任			講義
	3	4. 看護者の倫理綱領			グループワーク
	4	5. 看護実践における倫理問題への取り組み 1)医療現場における看護倫理の問題点 2)看護業務で直面するジレンマ 3)倫理問題における看護者の役割 4)看護者として倫理的ジレンマを感じたとき			講義
	5	6. 倫理的問題へのアプローチ			講義
	6	事例検討			グループワーク
	7	7. 組織での取り組み 1)看護倫理実践システム 2)倫理的意思決定のプロセス 3)倫理問題の解決策の決定と実施 8. 看護研究と倫理 1)看護研究を行う上での倫理的問題 2)臨床の現場における研究と倫理 3)研究者の抱える倫理的ジレンマ			講義
	8	終講試験			
評価方法	筆記試験 100%				
テキスト	医学書院 系統看護学講座 別巻 看護倫理				
参考文献	日本看護協会出版会 看護者の基本的責務 医学芸術者 看護倫理の基本 日本看護協会出版会 看護倫理を考える言葉 南江堂 看護倫理				
自己学習時間	30 時間	事前・事後学習	前回の講義資料を復習する テキストの関連部分を読む 課題が提示された場合は、事前に調べて参加する		

*この科目は実務経験のある教員による授業科目です。

科目区分	専門分野 I		科目名	共通基本技術		
開講時期	1 年次	単位・時間	1 単位 3 0 時間	講師名	専任講師	
学習目標	記録・報告 — 1. 看護記録の定義と目的、管理について理解できる 2. 報告の目的と方法が理解できる 指導技術 — 1. 看護場面における指導的活動の意義が理解できる 2. 対象に合わせた指導内容・指導方法の実際がわかる 事故防止 — 1. 看護における患者の安全について理解できる 2. 自己を防止するための対策ができる 感染予防 — 1. 感染および院内感染発生の要因を理解し、その防御策のための基礎知識を習得する					
授業の内容と方法	回	授業内容			授業形態	
	1	看護記録	意義・目的 法的規定 注意事項	記録の種類と内容 管理 開示	講義	
	2	報告	目的と種類	留意事項	講義	
	3	記録・報告の実際			講義・GW	
	4	指導技術 (1)	看護における学習支援 健康に生きることを支える学習支援		講義	
	5	指導技術 (2)	対象に合わせた学習支援		講義・GW	
	6	事故防止 (1)	安全確保の基礎知識		講義・GW	
	7	事故防止 (2)	事故防止の実際		講義・GW	
	8	事故防止 (3)	インシデントレポート 医療事故と医療過誤		講義・GW	
	9	感染予防 (1)	基礎知識 感染経路別予防策		講義・GW	
	1 0	感染予防 (2)	洗浄・消毒・滅菌 感染性廃棄物の取扱い 針刺し事故防止		講義	
	1 1	手指衛生	個人防護用具		演習	
	1 2	無菌操作 (1)			講義	
	1 3	無菌操作 (2)			演習	
	1 4	滅菌手袋	ガウン装着		演習	
1 5	終講試験					
評価方法	筆記試験 100%					
テキスト	系統看護学講座 基礎看護学 基礎看護技術 I・II (医学書院) 学ぶ・試す・調べる 看護ケアの根拠と技術 (医歯薬出版) 基礎・臨床看護技術 (医学書院)					
参考文献						
自己学習時間	15 時間	事前・事後学習	前回の講義資料を復習する テキストの関連部分を読む 課題が提示された場合は、事前に調べて参加する			

*この科目は実務経験のある教員による授業科目です。

科目区分	専門分野 I	科目名	日常生活の援助技術 I (環境)		
開講時期	1 年次	単位・時間	1 単位 30 時間	講師名	専任講師
学習目標	1. 環境調整の意義と必要性が理解できる。 2. 安全で快適な生活環境を整えるための援助技術を習得する。 3. 安全性と快適性が向上するための環境調整の工夫が考えられる。 4. 看護におけるコミュニケーションの意義を理解し、人間関係の形成のためのコミュニケーション技術を習得する。				
授業の内容と方法	回	授業内容			授業形態
	1	人間と環境 (1)人間における環境とは (2)人間の生活に影響を及ぼす外部環境因子			講義
	2	患者の生活環境 (1)環境の変化に伴う患者の身体的・心理的・社会的影響 (2)生活環境の条件			講義 グループワーク
	3	病棟・病室・病床の環境調整 (1)病院・病棟・病室の構造と設備 (2)療養環境のアセスメント			講義 グループワーク
	4	病床環境の調整 (1)病床周辺の環境整備 (2)ベッドメイキングの方法			講義
	5・6	ベッドメイキング (1)リネン類の取り扱い (2)ベッドメイキングの実際			演習
	7	リネン交換の実際			演習
	8・9	臥床患者のシーツ交換 臥床患者のシーツ交換の方法と留意点 臥床患者のシーツ交換の実際			講義 演習
	10・11	病室の環境測定 (1)病棟内の環境、病室内の環境測定の実際 (2)病室の環境測定のとまとめ			病棟見学 グループワーク
	12	人間関係の技術 (1)対人関係プロセスとしてのコミュニケーション			講義
	13	人間関係の技術 (2)看護におけるケアリングと人間関係成立のためのコミュニケーション			講義 グループワーク
	14	人間関係の技術 (3)効果的なコミュニケーションの実際			講義・演習 グループワーク
	15	技術チェック(45分) 筆記試験(45分)			
	評価方法	筆記試験 100%			
テキスト	系統看護学講座 基礎看護学 基礎看護技術 I・II (医学書院) 基礎・臨床看護技術 (医学書院)				
参考文献	学ぶ・活かす・共有する 看護ケアの根拠と技術 (医歯薬出版)				
自己学習時間	15 時間	事前・事後学習	前回学習はテキスト・講義資料を復習する。 演習はテキスト・配付資料を熟読して臨む。		

*この科目は実務経験のある教員による授業科目です。

科目区分	専門分野 I	科目名	日常生活の援助技術 II (食事・排泄)		
開講時期	1 年次	単位・時間	1 単位 30 時間	講師名	専任講師
学習目標	1. 対象に応じた食事援助の方法が理解できる。 2. 臥床患者への便器・尿器を用いた排泄の援助が安全・安楽にできる。 3. 排泄障害のある患者への排尿・排便を促す援助が安全・安楽にできる。 4. 食事・排泄の援助を受ける患者の心理が理解できる。				
授業の内容と方法	回	授業内容			授業形態
	1	栄養と食事の基礎知識 (講師：遠竹華子) 食事の心理的・社会的・心理的意義 食欲のメカニズム、食行動 など			講義
	2	栄養状態及び食欲・摂取能力のアセスメント 栄養状態の観察、摂食・嚥下能力、摂食行動 など			講義
	3	食事援助の基礎的知識 経口的栄養法、非経口的栄養法について			講義
	4	食事援助の実際 臥床患者に対する食事介助(全介助)、とろみ体験			演習
	5	排泄の基礎知識 (講師：大澤照代) 排泄の意義、排泄のメカニズム など			講義
	6	排泄の方法(自然排泄) トイレ、ポータブルトイレ、尿器・便器、オムツの援助			講義
	7	排泄の援助の実際 便器、オムツ交換の援助			演習
	8	排尿障害とその看護 尿失禁の原因と対応、排尿障害の看護 など			講義
	9・10	排泄の援助の実際(排尿障害) 一次的導尿の援助の実際、持続的導尿の援助の実際			演習
	1 1	排便障害とその看護 排便障害(便秘・下痢・便失禁)について、自然排便への援助			講義
	12・13	排泄の援助の実際(排便障害) グリセリン浣腸の援助の実際			演習
	1 4	排泄障害時の援助 摘便・ストーマについて			講義
	1 5	終講試験			
	評価方法	筆記試験 100%			
テキスト	系統看護学講座 基礎看護技術 II 医学書院 学ぶ・試す・調べる 看護ケアの根拠と技術 医歯薬出版 看護形態機能学 生活行動からみるからだ 日本看護協会出版会 基礎・臨床看護技術 医学書院				
参考文献	考える基礎看護技術 ヌーベルヒロカワ 看護技術がみえる①基礎看護技術 メディック・メディア 看護技術がみえる②臨床看護技術 メディック・メディア				
自己学習時間	15 時間	事前・事後学習	・関連する解剖生理学、その他の講義を復習して臨む。 ・演習は参考書、テキスト、資料を熟読して臨む。 ・学んだことを理解し、知識として残るよう復習する。		

*この科目は実務経験のある教員による授業科目です。

科目区分	専門分野 I	科目名	日常生活の援助技術Ⅲ (活動・休息・姿勢)		
開講時期	1 年次	単位・時間	1 単位 30 時間	講師名	専任講師
学習目標	1.活動の意義と必要性を理解し、体位及び体位変換(移動動作)の看護技術を習得する。 2.睡眠・休息の意義と必要性を理解し、安楽・安眠へのための看護技術を習得する。				
授業の内容と方法	回	授業内容			授業形態
	1	1.活動・運動と休息の意義と基礎知識 1)活動・運動・休息の意義 (1)活動の種類 2)よい姿勢 (1)かまえと体位 (2)重心と支持基底面 3)基本体位と特殊体位 4)基本肢位と良肢位			講義 個人ワーク
	2	1.活動の基礎知識と生理的メカニズム 1)ボディメカニクス (1)作業姿勢と作業域 (2)人間の自然な動き (3)作用・反作用 (4)トルク・てこの原理 2)日常生活動作 (1)ADL と IADL 3)活動・運動の生理学的メカニズム (1)神経系からの指令と筋の収縮 (2)反射と随意運動			講義
	3	1.身体不動性の影響 1)体位変換とバイタルサイン 2)同一体位と体圧 3)廃用症候群 4)褥瘡			講義 個人課題
	4	1.体位変換① 1)水平移動 2)上方移動			演習
	5	1.体位変換② 1)仰臥位から側臥位 2)側臥位から仰臥位 3)仰臥位から長座位 4)長座位から端座位			演習
	6	1.安楽な体位 1)体位の安定 2)安楽な体位の調整 3) ポジショニング			講義と演習
	7	1.車椅子・ストレッチャーの構造、移送の原則 1)車椅子の構造 (1)各部名称と点検 2)ストレッチャーの構造 (1)各部名称と取り扱い方法 2)移乗介助の選択 3)移送時の原則			講義
	8・9	車椅子への移乗・移送、ストレッチャーへの移送 1)車椅子への移乗 (2)端座位から車椅子への移乗			演習
	10	1.歩行介助(杖歩行・歩行器) 1)歩行の介助方法と留意点			講義と演習
	11	技術チェック時の事例検討			個人ワーク
	12	1.休息・睡眠の生理学的メカニズム 1)睡眠と休息の意義 2)睡眠の種類 (1)睡眠の起こるしくみ (2)睡眠による身体の生理的変化 3)睡眠制御のメカニズム (1)サーカディアンリズム			講義
	13	1.睡眠障害のアセスメント 1)睡眠障害の種類と要因 2)睡眠状態の観察			講義
	14	1.睡眠障害の援助の実際 1)睡眠障害の援助 (1)環境調整 (2)生活リズムの調整 (3)入眠の援助(足浴・リラクゼーション・温電法・冷電法)			講義 演習
	15	終講試験			
評価方法	筆記試験 100%		※技術チェック：体位変換・車椅子移乗と移送		
テキスト	系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護技術Ⅱ				
参考文献	1.根拠と事故防止からみた 基礎・臨床 看護技術 第2版 医学書院 2.看護技術がみえる① 基礎看護技術 メディックメディア 3.講義・演習ノート上巻 日常生活援助技術 サイオ出版 4.学ぶ・活かす・共有する 看護ケアの根拠と技術 医歯薬出版株式会社 5.看護 形態機能学 生活行動からみるからだ 第3版 日本看護協会出版会				
自己学習時間	15 時間	事前・事後学習	<事前>・講義、演習共に予習をしておく事。特に演習では看護技術の根拠や留意点を事前に調べておく事 <事後>・臨地実習に活用できるよう、看護技術を十分に		

			習得する事
--	--	--	-------

*この科目は実務経験のある教員による授業科目です。

科目区分	専門分野 I	科目名	日常生活の援助技術Ⅳ（清潔と衣生活）		
開講時期	1年次	単位・時間	1単位 30時間	講師名	専任講師
学習目標	1. 衣生活の意義を理解し、衣服を整える看護技術を習得する。 2. 清潔の意義と必要性を理解し、身体の清潔を保持することで安楽性を高めるための看護技術を習得する。				
授業の内容と方法	回	授業内容			授業形態
	1	1. 病床での衣生活の援助 ①衣生活の基礎知識 ②援助の方法			講義
	2	③臥床患者の寝衣交換の実際			演習
	3	2. 身体の清潔の意義			講義
	4	3. 健康障害のある人への清潔援助の実際 1) 入浴・シャワー浴 ①基礎知識 ②援助の方法			講義
	5	2) 部分浴（手浴・足浴・陰部洗浄・洗面） ①基礎知識 ②援助の方法			講義
	6	③ 部分浴の実際			演習
	7	3) 全身清拭 ① 基礎知識 ② 援助の方法			講義
	8・9	③ 全身清拭の実際			演習
	10	4) 洗髪 ① 基礎知識 ② 援助の方法			講義
	11・12	③ 洗髪の実際			演習
	13	5) 整容 6) 口腔ケア } ① 基礎知識 ② 援助の方法			講義
	14	③ 口腔ケアの実際			演習
	15	技術チェック(45分) 筆記試験(45分)			
評価方法	筆記試験 100%				
テキスト	医学書院：系統看護学講座 基礎看護学 基礎看護技術Ⅱ 医学書院：基礎・臨床 看護技術				
参考文献	医歯薬出版：学ぶ・試す・調べる 看護ケアの根拠と技術 日本看護協会出版会：看護形態機能学				

自己学習時間	15 時間	事前・事後学習	前回の講義資料を復習する テキストの関連部位を読む 課題が提示された場合は、事前に調べて参加する 学習した技術の習得に向け練習をする
--------	-------	---------	---

* この科目は実務経験のある教員による授業科目です。

科目区分	専門分野 I	科目名	フィジカルアセスメント		
開講時期	1 年次	単位・時間	1 単位 30 時間	講師名	専任講師
学習目標	系統的な観察、問診、視診、聴診、打診により対象の健康状態を把握し評価する技術を習得する。				
授業の内容と方法	回	授業内容			授業形態
	1	フィジカルアセスメントに共通する技術① 1) 問診 2) 視診			講義
	2	フィジカルアセスメントに共通する技術② 3) 触診 4) 打診 5) 聴診 *身体計測			講義
	3	バイタルサインの測定① 1) バイタルサインとは 2) 体温測定 3) 呼吸測定			講義
	4	バイタルサインの測定② 4) 脈拍測定 5) 血圧測定 6) 意識状態 7) 記録と報告			講義
	5	バイタルサインの測定③ 血圧測定の方法			講義
	6	バイタルサインの測定④ 血圧測定の実際			演習
	7	バイタルサインの測定⑤ バイタルサインの測定の実際			演習
	8	系統別フィジカルアセスメント① 呼吸器系			講義
	9	系統別フィジカルアセスメント② 循環器系			講義
	10	系統別フィジカルアセスメント③ 消化器系・腹部			講義
	11	系統別 フィジカルアセスメントの方法			演習
	12	系統別フィジカルアセスメント④ 頭部・感覚器系・脳・神経系			講義
	13	系統別フィジカルアセスメント⑤ 運動器系・乳房・腋窩			講義
	14	状況に合わせたバイタルサインの測定			演習
	15	筆記試験・技術チェック			
評価方法	筆記試験				
テキスト	横山美樹：はじめてのフィジカルアセスメント メヂカルフレンド社 基礎看護技術 I 医学書院、基礎・臨床看護技術				

参考文献			
自己学習時間	15 時間	事前・ 事後学習	バイタルサインの測定技術の習得

*この科目は実務経験のある教員による授業科目です。

科目区分	専門分野 I	科目名	看護過程		
開講時期	1年次	単位・時間	1単位 30時間	講師名	専任講師
学習目標	1. 対象のもつ健康上の問題を明らかにし、その問題を解決するための看護過程の展開方法を習得する。				
授業の内容と方法	回	授業内容			授業形態
	1	看護過程の意義 (1) 看護過程とは (2) 看護過程の必要性			講義
	2	看護過程の概要 (1) アセスメント ①情報収集の目的 ②情報収集の方法 ③アセスメントの枠組み			講義 グループワーク
	3	④情報の分析(解釈・判断) ⑤情報の統合(関連図)			
	4	(2) 看護問題の明確化(看護診断) ①看護問題の明確化の進め方 ②看護診断とは(定義・種類・構成要素)			
	5	③看護診断の確定 ④優先順位の決定 ⑤共同問題			
	6	看護過程の概要 (3) 看護計画 ①看護計画の意義 ②期待される成果(ゴール) ③具体策(看護記入)の立案			講義
	7	看護過程の概要 (4) 実施・評価:実施の意味、評価の方法 (5) 看護記録 : POS、SOAP			講義
	8	事例展開 「大腿骨頸部骨折の患者」 事例について解説			講義
	9	(1) 情報の整理			個人ワーク
	10	(2) アセスメント・関連図・看護診断			グループワーク
	11				
	12	(3) 目標の設定・看護計画			グループワーク
	13				
	14	事例展開 グループワーク発表			講義
15	まとめ 終講試験(20分)				
評価方法	筆記試験50% 個人課題50%				
テキスト	系統看護学講座 基礎看護学 基礎看護技術 I (医学書院) ヘンダーソン・ゴードンの考え方にもとづく実践看護アセスメント 第3版(医学書院) 看護診断ハンドブック 第11版 (医学書院)				
参考文献					
自己学習時間	15時間	事前・事後学習	前回学習はテキスト・講義資料を復習する。 演習はテキスト・配付資料を熟読して臨む。		

*この科目は実務経験のある教員による授業科目です。

科目区分	専門分野 I	科目名	診療に伴う技術 I			
開講時期	1 年次	単位・時間	1 単位 30 時間	講師名	専任講師	
学習目標	1. 診療と検査の意義、目的を理解し診察・検査を受ける患者への看護技術を習得する 2. 処置が必要な人への基礎的な看護技術を習得する 3. 静脈血採血の基本技術を習得する					
授業の内容と方法	回	授業内容			授業形態	
	1	1. 診察を受ける人への看護 1) 診察の目的と種類 2) 診察時の援助 2. 検査を受ける人の看護 1) 検査の意義 2) 検査における看護師の役割 3) 検査の種類と実施時の注意点			講義	
	2・3・4	3. 主な検査の方法と看護師の役割 1) 生体検査と援助方法 2) 検体検査と援助方法			講義 グループワーク	
	5	4. 静脈血採血 1) 静脈血採血の目的と採取部位 2) 採血実施時の留意事項			講義 演習	
	6・7	3) シリンジによる採血の方法と実際 4) 真空管採血による採血の方法と実際			演習	
	8	5. 検体検査の実際 1) 検査科での生体検査・検体検査の実際			検査科 (検査の見学)	
	9	6. 穿刺時の看護(腰椎穿刺・胸腔穿刺・腹腔穿刺・骨髄穿刺) 7. 洗浄時の看護(胃洗浄・膀胱洗浄)			講義	
	10	8. 包帯法 1) 包帯法の基本 2) 包帯法の実際			講義 演習	
	11 12	9. 呼吸を整える技術 1) 吸入 2) 一時的吸引 3) 排痰法			講義 演習	
	13 14	4) 援助の実際(酸素吸入・一時的吸引)			演習	
	15	技術チェック：真空管採血を用いた採血 筆記試験(45分間)			技術チェック 試験	
	評価方法	1. 筆記試験 90% 2. 事前課題 10%				
	テキスト	系統看護学講座 基礎看護学 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 学ぶ・試す・調べる 看護ケアの根拠と技術 医歯薬出版 基礎・臨床看護技術 医学書院 検査値早わかりガイド サイオ出版				
参考文献	看護技術 講義演習ノート下巻 診療に伴う看護技術 医学芸術社 看護技術がみえる2 メディックメディア					
自己学習時間	15 時間	事前・事後学習	課題が提示された場合は、事前に調べ期限内に提出する テキスト関連部分を予習する 前回の講義資料を復習する 技術は練習し技術習得を目指す			

*この科目は実務経験のある教員による授業科目です。

科目区分	専門分野 I		科目名	診療に伴う技術 II		
開講時期	1 年次	単位・時間	1 単位 3 0 時間	講師名	専任講師	
学習目標	1. 与薬の意義・目的を理解する。 2. 与薬を受ける患者への基礎的な看護技術を習得する。					
授業の内容と方法	回	授業内容			授業形態	
	1	1. 薬物療法の意義と基礎知識			講義	
	2	2. 薬物療法における看護師の役割			講義	
	3	3. 経口与薬法			講義・演習	
	4	4. その他の与薬法 (直腸内、点眼、点耳、点鼻、吸入、経皮)			講義	
	5	5. 注射による与薬法 I (注射による基礎知識)			講義	
	6	6. 注射による与薬法 II (筋肉内注射、皮下注射、皮内注射)			講義	
	7・8	7. 筋肉内注射技術			演習	
	9	8. 注射による与薬法 III (静脈内注射、中心静脈)			講義	
	10・11	9. 点滴静脈内注射の援助技術			演習	
	12	10. 輸液ポンプ・シリンジポンプ			講義	
	13	11. 輸液ポンプ・シリンジポンプの取り扱い			演習	
	14	12. 輸血管理			講義	
	15	45分間 筆記試験、45分間 まとめ				
	評価方法	筆記試験 100%				
テキスト	系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護技術 II 基礎看護学③ 医学書院 学ぶ・活かす・共有する 看護ケアの根拠と技術 医歯薬出版株式会社 根拠と事故防止から見た 基礎・臨床看護技術 医学書院					
参考文献	看護技術プラクティス 学研 写真でわかる臨床看護技術① インターメディカ 写真でわかる輸血の看護技術 インターメディカ 基礎看護技術 医学書院 看護がみえる Vol.① 基礎看護技術 MEDIC MEDIA 看護が見える Vol.② 臨床看護技術 MEDIC MEDIA					
自己学習時間	15 時間	事前・事後学習	講義・演習問わず、事前にテキストを読み込む ノートや配布された講義資料を復習する 技術は演習時間以外にも自己学習時間に復習する			

*この科目は実務経験のある教員による授業科目です。

科目区分	専門分野 I	科目名	臨床看護総論		
開講時期	1 年次	単位・時間	1 単位 30 時間	講師名	専任講師 臨床工学技士
学習目標	健康障害をもつ患者および家族を理解し、全ての発達段階に共通した看護の基本を習得する。				
授業の内容と方法	回	授業内容			授業形態
	1	臨床看護とは (1) 臨床看護における対象者の理解 (2) 臨床看護の場			講義
	2	健康障害の経過からみた看護 (1) 急性期・回復期・慢性期を経験している患者の看護			講義
	3	健康障害の経過からみた看護 (2) リハビリテーションと看護 (3) 終末期を経験している患者の看護			講義
	4・5	生命維持機能／日常生活活動に影響を及ぼす障害と看護 (1) 生命維持機能と日常生活活動の関係 (2) 呼吸が障害されるということ (3) 循環が障害されるということ			講義 グループワーク
	6	生命維持機能／日常生活活動に影響を及ぼす障害と看護 (4) 栄養・排泄が障害されるということ			講義 グループワーク
	7	生命維持機能／日常生活活動に影響を及ぼす障害と看護 (5) 運動機能が障害されるということ			講義 グループワーク
	8・9	生命維持機能／日常生活活動に影響を及ぼす障害と看護 (6) 意識が障害されるということ (7) 痛みを経験するということ			講義 グループワーク
	10	治療方法とそれを受ける患者の看護 (1) 安静療法と看護 (2) 食事療法と看護			講義
	11	治療方法とそれを受ける患者の看護 (3) 薬物療法と看護 (4) 手術療法と看護			講義
	12	治療方法とそれを受ける患者の看護 (5) 救急・集中治療と看護 (6) 人工臓器装着／臓器移植を必要とする患者の看護			講義
	13	治療方法とそれを受ける患者の看護 (7) 化学療法と看護 (8) 放射線療法と看護 (9) 創傷処置／創傷ケアを受ける対象者への看護			講義
	14	医療機器使用の実際			講義
	15	まとめ 筆記試験(45分)			
	評価方法	筆記試験 100%			
テキスト	新体系 看護学全書④臨床看護総論(メヂカルフレンド社)				
参考文献	看護過程に沿った対症看護(学研)				
自己学習時間	15 時間	事前・事後学習	前回学習はテキスト・講義資料を復習する。 演習はテキスト・配付資料を熟読して臨む。		

*この科目は実務経験のある教員による授業科目です。

科目区分	専門分野 I	科目名	看護研究		
開講時期	2年次	単位・時間	1単位15時間	講師名	専任講師
学習目標	看護研究の意義や必要性を学び、研究方法の基礎を理解する				
授業の内容と方法	回	授業内容			授業形態
	1	1. 研究の意義と必要性 1) 看護研究の目的・定義 2) 看護研究を学ぶ意義 3) 看護研究のテーマとなる条件 4) 看護研究の歴史と看護理論 5) 看護研究における倫理的配慮			講義
	2	2. 研究の種類と研究方法 1) 実験研究 2) 観察研究 3) 事例研究 4) 文献研究 5) 現象学的アプローチ 6) 実施順序 7) 研究デザ			講義
	3	3. 文献検索と文献検討 1) 文献検索・文献検討の目的 2) 文献の種類と活用方法 3) 文献検索の進め方 4) 文献入手の方法と整理の仕方			講義 グループワーク
	4	5) 文献検討の基本的な考え方 (1)情報収集の視点 (2)クリティークの視点			講義
	5	(3)論文のクリティーク			グループワーク
	6	4. 研究の進め方 1) 研究全体の進め方 2) 具体的な研究の進め方 (1)研究計画書書き方 (2)データ収集の方法 (3)データの整理と分析 (4)妥当性と信頼性 (5)倫理的配慮			講義
	7	3) 研究論文にまとめる意義 4) 研究論文の全体の構成 5) 論文の書き方 6) 抄録の書き方 7) 研究成果を発表する意義 8) 効果的なプレゼンテーション			講義
	8	終講試験			
評価方法	筆記試験 100%				
テキスト	かんたん看護研究 南江堂				
参考文献	講義時提示する				
自己学習時間	30時間	事前・事後学習	前回の講義資料を復習する テキストの関連部分を読む 課題が提示された場合は、事前に調べて参加する		

*この科目は実務経験のある教員による授業科目です。

科目区分	専門分野 I	科目名	看護研究演習		
開講時期	3 年次	単位・時間	1 単位 1 5 時間	講師名	専任講師
学習目標					
授業の内容と方法	回	授業内容			授業形態
	1	1. ケーススタディとはケーススタディの意義 2. ケーススタディの方法 1) テーマ選定			講義
	2	2) 研究計画書の書き方 3) 文献検討			講義
	3	3. ケーススタディを行うにあたっての原則 4. ケーススタディのまとめ方			グループワーク
	4	5. 研究計画書作成研究計画書の作成・修正 ケースレポートの作成			講義
	5	6. 発表に向けての準備抄録の書き方 7. 発表時の準備 1) 発表方法 2) 発表時の留意点			講義
	6	3) 発表会準備 ・資料作成 ・会場・物品準備			グループワーク
	7・8	ケーススタディ 発表会			講義
評価方法	研究計画書 ケースレポート 抄録 発表 について評価する				
テキスト	看護のためのわかりやすいケーススタディの進め方 照林社				
参考文献					
自己学習時間	30 時間	事前・事後学習	ケーススタディ発表までに提示された課題を計画的に進める		